



校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ⑨

令和2年8月7日（金）

いのち 「生命」

一昨日は、7月豪雨から1ヶ月でした。80名以上の人が亡くなり、今なお4人の人が行方不明のままとなっています。また、川遊びに来ていた母娘が滝の崩落によって犠牲になったり、首都高速道路で暴走した車に追突された車に乗っていた夫婦が亡くなったという事件も最近のことでした。

こうした不慮の災害や事故等で亡くなった人たちや通り魔のような犯罪に巻き込まれて亡くなった人たちは、まさか自分がこんなことになるとは思ってもいかなかったはずです。きっとこれからの色々な夢や計画、人生設計もあったはずですが、しかし、その^{いのち}生命を突然、一瞬にして、想像だにしない、思いもよらないことによって奪われてしまったのです。

6月19日の「毎金ふかしんメッセージ」でもお話ししたように、昨日は広島原爆投下から75年目の日、明後日9日は同じく長崎の、そして15日は終戦の日です。先の戦争を経験した方々が高齢となり、年々語り継ぐ人たちが減少する^{こんにち}今日、この8月は、私たちひとり一人が「^{いのち}生命」について、あらためてゆっくり考える時ではないかと思っています。

今から75年前に310万人もの日本人が同じように自分の意思とは全く無関係に、他からの力によって、その尊い生命を奪われました。その中には何万人という子供や、そしてみなさんと同じ年齢の若い人たちもいます。そのひとり一人は、きっと、もっともっと生きたかったはずです。しかし、ある人は愛する人や家族、祖国を守るために戦いの中や戦地に斃れ、またある人は空襲や戦闘に巻き込まれ、その尊い生命を奪われたのです。もっともっと生きたかったであろうに、自分の意思とは関わりなく、その^{いのち}「生命」を絶たれ、その人の将来、人生、夢を暴力的に奪われたのです。この平和な世の中に生きることができている私たちは、今、改めてこのことに、思いを馳せなければならないと思います。

私たちは、毎日当たり前のようにこの社会で生活しています。しかし、私たちがこの世に生を受けたのは驚くような奇跡の結果であることを忘れてはならないと思います。一般的に生殖可能期間に男性が作る精子の数は約1億7500万個、女性が作る卵子は約200～400個と言われており、そこから計算すると私たち一人がこの世に生を受ける確率は1400兆分の1であるとも言われます。そういう意味では、私たちは、この凄い確率によって「奇跡的」にこの世に生を受けた「奇跡の存在」と言えます。

今も昔も、生きてくても生きることができなかつた人たちがあまりにもたくさんいることをしっかりと受け止め、考えなければならないと思います。こう考えると、私たちは自分で「生きている」と思っていますが、本当は何か目に見えない力によって、ひとり一人がこの世に存在する「ミッション」を持って誕生し、その「ミッション」を果たすために「生かされている」と言えるのかもしれませんが。

だからこそ、こうして今、生きている私たちは、生きてくても生きることができなかつた人々の思いもしっかりと背負い、ひとり一人のこの世に生を受けた「ミッション」を果たすために、どんなにつらいことや、悲しいこと、絶望的に感じることもあったとしても、必ず誰かと連帯して、自分を大切に、一日一日を大切に、生き続け、その「生かされた」^{いのち}生命を最後まで、大切に全うしなければなりません。

この夏、みなさんと共に「生命」^{いのち}について、あらためてしっかりと考えたいと思います。

今年は2週間という短い期間ではありますが、昨日から夏休みに入りました。新型コロナウイルス感染拡大は全く予断を許さない深刻な状況になっています。ひとり一人が今まで以上に感染防止を徹底し、熱中症や事故の防止等に十分すぎるほど注意・対策をして、8月21日（金）の第2学期始業式に、みなさんたち全員の元気な顔と再会できることを心から願っています。

8月14日（金）の「校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ」は、夏休みをいただいて休刊します。再開は第2学期始業式の8月21日（金）です。

校長 深瀬 信也